

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 1 部門第 1 区分

【発行日】平成20年10月30日(2008.10.30)

【公表番号】特表2005-507245(P2005-507245A)

【公表日】平成17年3月17日(2005.3.17)

【年通号数】公開・登録公報2005-011

【出願番号】特願2003-519098(P2003-519098)

【国際特許分類】

C 1 2 N 15/09 (2006.01)

C 0 7 K 14/47 (2006.01)

C 1 2 P 21/02 (2006.01)

C 1 2 Q 1/02 (2006.01)

C 1 2 N 5/10 (2006.01)

【F I】

C 1 2 N 15/00 Z N A A

C 0 7 K 14/47

C 1 2 P 21/02 C

C 1 2 Q 1/02

C 1 2 N 5/00 B

【誤訳訂正書】

【提出日】平成20年9月11日(2008.9.11)

【誤訳訂正 1】

【訂正対象書類名】特許請求の範囲

【訂正対象項目名】請求項 1

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【請求項 1】

S E Q I D N O 1 及び 2 による野生型と比較して、c G M P に対するよりも、c A M P に対する高い感受性及び / 又は c A M P に対する高い選択性を有するように、ウシ由来の 3 - サブユニット中のトレオニン T 5 3 7 に相当する位置で修飾されているサブユニットからなる遺伝子修飾された環状ヌクレオチド作動性イオンチャネル (C N G チャネル)。

【誤訳訂正 2】

【訂正対象書類名】特許請求の範囲

【訂正対象項目名】請求項 3

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【請求項 3】

同じサブユニットからなるホモオリゴマー構造又は種々のサブユニットからなるヘテロオリゴマー構造を有することを特徴とする、請求項 1 又は請求項 2 記載の遺伝子修飾された C N G チャネル。

【誤訳訂正 3】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0 0 0 1

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0 0 0 1】

本発明は、環状ヌクレオチド作動性イオンチャネル (C N G チャネル) をコードする遺

伝子修飾された核酸、有利にはDNA及び対応するタンパク質並びにそれらの使用方法に関する。

【誤訳訂正4】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0003

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0003】

セカンドメッセンジャーの細胞内濃度は、まずシグナル伝達カスケードによって調節され、このカスケードでは細胞の膜中のGタンパク質共役型レセプター（GPCR）が細胞外シグナルを感知し、次いで対応するGタンパク質を活性化し、かつこのGタンパク質は再び相応のエフェクタータンパク質の活性を刺激するか、又は阻害する（Morris, A. J. 及びMalbon, C. C. 著（1999）：“Physiological regulation of G protein-linked signaling”, Physiol Rev., 79, 1373-1430）。更にそれぞれ個々の成分の活性は多様なフィードバック機構の枠組みの中で他のタンパク質によって調節することができる。

【誤訳訂正5】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0028

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0028】

このようなCNGチャネルは（1）別の生物の3-サブユニット、（2）ウシ又は別の生物由来の別のCNGチャネル-サブユニットを含み、並びに（3）これらのサブユニットからなるホモオリゴマーもしくはヘテロオリゴマーの構造を有することができる。これらのサブユニットは（4）ウシ由来のCNGチャネルの3-サブユニット中の位置T537に相当する位置でそれぞれ遺伝子修飾されていてよい。前記の位置でトレオニンはメチオニン又はバリンによって置換されていてよいが、又は別のアミノ酸（セリンを除く）によって置換されていてよい。このようなサブユニットは（5）別の位置に更なる遺伝子修飾を有することができる。更にこれらのCNGチャネルは（6）前記の位置で同様に遺伝子修飾されているキメラサブユニットを有することができる。